

福生本町保育園の建替えについて

社会福祉法人不動福社会（福生 959-8 理事長 瀬古毅氏）より、運営する福生本町保育園の建替えを行い、併せて保育所型認定こども園へ移行したい旨の要望を受けた。

1 保育所型認定こども園への移行について

法人は「人口減少・少子高齢化の中、保育ニーズが将来に渡って伸びることは考えられず、地域と密着した特色のある保育所運営を行い、保護者から信頼され選ばれる保育園を創っていくことが必要である。」と考え、そのためにも、保護者の勤務状況に関わらず施設の利用が可能で、適切な集団規模で子どもの社会性を育むことや育児不安の大きい子育て世帯への支援を目的に、保育所型認定こども園へ移行したいと考えている。

福生本町保育園の周辺には幼稚園がないため、福生本町保育園周辺住民の1号認定の需要に対し定員の供給を行うことは地域の子育て世帯への支援となり得ると考えられる。

市内の4つの幼稚園は全てJR青梅線の線路の西側に所在



牛浜こども園
1号認定 定員6人
(3歳：2人 4歳：2人 5歳：2人)

現行（認可保育所）（80人）

	保育所
0歳	3人
1歳	5人
2歳	12人
3歳	20人
4歳	20人
5歳	20人
合計	80人



建替え後（認定こども園）（88人）

	保育所部分	幼稚園部分	保育所定員増減	1号認定
0歳	9人		+6人	
1歳	14人		+9人	
2歳	14人		+2人	
3歳	15人	2人	▲5人	+2人
4歳	15人	2人	▲5人	+2人
5歳	15人	2人	▲5人	+2人
合計	82人	2人	+2人	+6人

また、福生市子ども・子育て支援事業計画（第2期）において、認定こども園の設置の拡大に向けて検討していくとしており、保育所型認定こども園への移行について、市は法人と同意見である。

【 今後の方向性 】

児童数は減少傾向にあります。幼児教育・保育の無償化の影響や横田基地の子どもの教育・保育施設の利用などにより、当面はニーズ量は微増するものと考えられます。その後ニーズ量は、ピークを迎えることとなり、減少に転じていきますが、その際は提供量の調整が必要になります。

今後、既存施設の有効活用を前提に、保護者の就労状況に関わりなく、子どもが教育・保育を一体的に受けることのできる認定こども園の設置の拡大に向けて、保育所や幼稚園のニーズ量や地域の実情に応じて、事業を行う者と相互に連携し、推進方法について協議、検討していきます。

(第2期子ども・子育て支援事業計画 123 ページ)

2 今後の保育需要について

子ども・子育て支援事業計画（第2期）（令和2年～令和6年）において児童数は減少傾向だが保育ニーズ量は微増するものと考えており、特に1、2歳児の保育施設利用の需要と定員の供給に余裕がない見込みとなっている。

建替えに伴う0～2歳児の定員拡大は、市の実情や考えに合致するものとなっている。

子ども・子育て支援事業計画（第2期）における3号認定の児童数、保育ニーズの推計値と保育の提供量の見込み

	R3年度		R4年度		R5年度		R6年度	
	1、2歳	0歳	1、2歳	0歳	1、2歳	0歳	1、2歳	0歳
児童数	711	374	724	368	712	361	699	356
ニーズ量	445	101	453	99	445	97	437	96
提供量	460	125	460	125	460	125	460	125
過不足	15	24	7	26	15	28	23	29

令和3年4月1日の福生市全体の状況

令和3年4月1日	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
児童数	326	366	374	337	368	412
保育需要数	100	232	260	228	245	274
利用定員数	125	214	254	262	278	282
利用定員数－需要数	25	▲18	▲6	34	33	8
待機児童数	0	0	0	0	0	0

【0歳】

年度当初は利用定員が上回り、
年度途中で埋まっていく

【1歳、2歳】

年度当初から需要に対して利用定員数が少なく、
待機児童が発生しやすい区分